

道環

2026

Summer

第172号



お寺で作った琥珀糖

徳あるは誉むべし、徳なきはあわれむべし

道元
禅師

徳のある言動をする者に対しては「ああ、すばらしい」と誉めなさい、徳のない言動をする者に対しては「ああ、残念ですね」と憐れみなさい、という意味。当たり前のように思いますが、私たちはその逆ばかりしてしまいます。徳のある言動をする人に対しては、私たちはうらやんだり、あるいは短所を見つけようとして、徳のない言動をする人に対しては、憎んだり嫌ったりするからです。

永平 80 世 南澤道人禪師様

ご遷化

みなみさわどうにん

大本山永平寺の南澤道人禪師が、去る5月29日、ご遷化（ご逝去）になられました。享年100歳（満98歳）でした。今年4月29日にご隠退された後、ちょうど一か月後のご遷化でした。6月9日に大本山永平寺様にてご密葬が勤められ、荼毘に付されました。

私（住職）の永平寺修行時代、禪師様は永平寺全山をとりしきるお役である監院様であられ、大変にお世話になりました。数々の大きな行事を勤められる一方で、現代に禅修行を続ける環境を整え続けるという難しい課題にとりくまれ、御本山を今日まで繋いでくださいました。

私は平成13年に御本山を下りてから約20年後、永平寺顧問のお役をいただき、再び上山する機会を頂いたのも、南澤禪師様でした。顧問就任式で親しく御目にかかった際には、私の祖父、宮川敬道（天徳寺31世住職）の話をしてくださり、「私（禪師様）が永平寺に修行であがった際には、あなたのおじい様に大変お世

話になりました」とおっしゃられ、畏れ多いことでした。

4月29日の退董式（住職引退式）では、ご体調が悪いなか見事にお勤めになり、道元禪師の法孫として修行に勤めるよう私たち全員に切々とお説きになりました。涙が出るほどありがたいことでした。ご本葬は9月11日に勤められます。こちらにもぜひお参りしたく存じます。謹んで真位を増崇いたします。



永平 80 世 南澤道人（みなみさわどうにん）禪師
5月29日ご遷化（せんげ）

第 81 世 羽仁素道新禪師様

はにそどう

4月29日に南澤禪師様が退董されたことを受けて、新たに第81世貫主として羽仁素道禪師様がご就任されました。羽仁禪師様は群馬県のお生まれで、91歳です。群馬県の名刹迦葉山弥勒寺のご住職を長年お勤めになり、曹洞宗参議、審事院議長、永平寺顧問などの要職を歴任され、副貫主へと当選されました。そのお人柄は春風のように優しく、けれども修行をゆるがせになさらない強い決意を秘めた禪師様でいらつしやいます。

4月29日のご就任式では、「皆さまと一緒にこの永平寺で修行を勤めたいと思っております。よろしくお願ひします」と簡潔ながら力強い御決意を述べられました。翌30日に新顧問会が招集され、私（住職）も再び顧問職の委嘱を頂戴しました。もったいないことでした。

永平寺様は、4年後に永平二祖懷獎禪師七百五十回大遠忌を迎えられます。これからの永平寺様をお支える一助として、微力ながら全力を尽くすことを新禪師様にお誓いした

ことでした。

新禪師様の晋山式（正式な就任お披露目の式）は9月11日、南澤禪師様ご本葬の際に合わせて執り行われます。



永平 81 世 羽仁素道（はにそどう）新禪師様
永平寺 ご入山



ごあいさつ

今年も暑い夏を迎えました。皆さま体調を整えて、お盆を迎え、ご先祖様をお迎えしていただければと思います。

今回の記事でも取り上げましたが、南澤禅師様のご退董（住職引退）とご遷化（ご逝去）、羽仁新禅師様のご入山（お寺の住職となること）のために、お正月から毎月、御本山へ上らせて頂いていました。ご退董とご入山の計画と法要についての検討会、ご遷化の経過についての報告会、次期副貫主候補の選挙など、会議が続きました。微力ながらもお手伝いできればと思っております。

さて、すでにお知らせのとおり、今年より当山での施食会の時間を変更いたしました。（施食会とはお盆に集まる精霊へお供物の食事を供養する法要という意味です）。午後5時よりお話、午後6時より法要開始といたします。これは近年の夏の非常な暑さに対処するためです。ほかにも暑さを乗り切る工夫をしてみますので、夕涼みがてら、どうぞお参りにお越しく下さい。

住職 宮川 敬之

お寺の

あれこれ

ー墓じまいについてー

最近、「墓じまい」や永代供養についてのご相談を受ける機会が増えています。「子どもに負担をかけたくないので」とお話しされる方も少なくありません。お墓を守っていくことは、本当に子どもたちにとって「迷惑」なのでしょう。この問いについて考えさせられたものとして、社会学者・上野千鶴子さんが、朝日新聞「悩みのるつぼ」（2014年3月29日欄）で、「延命措置、葬儀、墓」はすべて「なし」でいいと考えている60代女性の質問に対して、回答した記事がありますので、抜粋して掲載します。

「死後の問題」は分けて考えましょう。

上野千鶴子

「延命措置、葬儀、お墓」何ものかがお望みとか、これは分けて考えたほうがよいですね。延命措置は今

はいらないと思っても、土壇場で気が変わるかもしれません。その場になって考えても遅くないですから、これは別にしましょう。

「葬儀とお墓」は死んだあとのこと。こちらは生きている人たちに任せましょう。家族の死をどう悼みたいかは、死んだ人の問題ではなく生きている人の問題。わたしはこうしてほしい、と子供たちに意向をおしつけるより、あなたはどうしたいの、と聞いてみてはいかが？

あなたご自身は親の葬儀はムダだったと思いますか？葬儀は残された者がけじめをつけるための別れの儀式。あくまで生きている者のためにあると観念してください。

生きているあいだのこと、死んだからのことは切り分けましょう。あなたの意志が通るのは生きているあいだのこと。死んだからのことに希望をいうのはよいけれど、託さなければならぬ相手と相談しながら折り合いをつけましょう。過剰な期待も過小な期待も、相手にとっては迷惑なもの。何より家族のあいだで死を話題にできるってすてきなことです。死は、親が子に伝えることので

きる最後の教育の場であることを忘れないでください。（以上抜粋）

お墓もお仏壇も、それぞれのお家が祖父祖母、父母より「託された」ものです。大事な遺産として、どのように受け継げるか、ぜひ御家庭内でお話いただければと思います。なお、上野さんの回答の全文はお寺で読んでいただけます。

感謝録

次の方より御寄進を賜りました。厚くお礼申し上げます。

谷口 秀明 様

一金、参萬圓也

夏光浄操信女供養として

河原 綾子 様

一金、壹拾萬圓也

直心邦徳信士供養として

中山 健二 様

一金、壹拾萬圓也

眞照公潤大姉供養として

田中 則雄 様

一金、貳拾萬圓也

田中家先祖代々精霊供養として

教えて方丈さん！

子どもが勉強をするときに、チャッピーに質問をしてすぐに答えを聞いたたりしています。便利な反面、それで大丈夫なのかなと思ったりもします。これも時代の流れでしょうか。「自分」の考えがどこかに消えてしまうような、そんな不安感があります。

(40代男性)

ご質問ありがとうございます。なるほど「チャッピー」ですか…。チャットGPTのことですね。宿題のときにパソコン上の「チャッピー」にすぐ質問して、その答えを書くというのは、きわめて現代風な勉強の光景ですね。でも、それがこれからの勉強なのでしょうね。

すべての技術がそうであるように、「チャッピー」も使い方次第だと思います。たとえば答えが一つ

に決まっている数学の計算式の答えや、あるいは歴史の年号、歴史的事件、科学的知識などでは、「チャッピー」に訊くのは、便利であり有効でもあるでしょう。それは言ってみれば、瞬時に返答してくれる辞書や百科事典を持つているようなものですから（しかも毎日最新の知識に更新される理想的なものです！）便利さはこの上ありません。紙の辞書や辞典をムシムシと引きながら時間をかけて答えを探そうとすることは、もはや必要ないのかもしれない。けれども、それは単純なことからいいてです。解釈がいろいろできる場合には、私には「チャッピー」の答えはあまり有効だとは思えません。

「チャッピー」の答えにないものとは、「責任」です。「チャッピー」のまちがいは「責任」を問うことができます。チャッピーは、まちがいが起こった混乱を収めませんし、まちがいがからの損失を補填しません。まったくの無責任です。結局は、提供する解釈を虚偽かどうか確かめなかった、あるいは提供する解釈を鵜呑みにして他の解釈を探らなかった使用者自身が「責任」を問われることになるのです。「チャッピー」の回答には「責任」がない。

質問者さんが感じる「不安感」とは、ここに起因しているように思います。

「チャッピー」の回答は選択肢を与えてくれているだけだ、と知っておくことが大事だと思います。実際の判断には「責任」が伴います。そして「責任」を持つとうとする場合には、自分の考えでもって調べ、いろいろな可能性を考え、もつとも妥当なものを自分で判断して、それを公共の場に提示しなければなりません。つまり「努力」が必要となります。

こうした「努力」をとまなう「責任」は面倒ですし、引き受けたくはありません。けれども「努力」を伴った「責任」によって語られる知識や解釈だけが、聞くひとに「尊敬」や「感動」を与えてくれるように思います。それは知識や解釈が、一人の人間の血肉となつて立ち上がっているさまを見るからです。

ぜひ、実際の人間から直接お話を聞き、あるいは公刊された書籍を読むことで、子どもさんが「責任」と「努力」、「尊敬」と「感動」に出会われるよう願っています。

寺市開催のお知らせ

10月18日（日）11時〜

今年は3年ぶりのお昼開催の寺市となります。お馴染みの出店者さんに加え、新しいお店の参加もご紹介します。お気軽にお誘い合わせの上、足を運んでいただけたらと思います。



「責任」ある言葉が人を感動させます。





本のひろば

チャットGPTやAIについてなにか入門的な本を読みたいと思っていた。欲張るなら、入門的な本でありつつも、現代社会におけるAIの未来と問題性についてもちゃんと指摘してくれる本であってほしい。そのように考えていた矢先に本書に出会った。著者は世界的な仏教学者と^{しずか}、その御子の数学者である。父閑氏の著作は何冊も読んでいたので、必ず面白いと確信して読んだ。はたして面白い。

この本の特徴は、AIについての説明をする際に、その開発が、どのような考えから生まれたことであるのか、その思想史をちゃんと説明してくれている点にある。「AIという鏡」というタイトルどおり、本書によれば、AIを開発することとは、私たちがどのような受け答えをする相手に「知性」を見出すのかを、自分に問うことと同義であった。AIの基礎を考えた科学者チューリングは、会話

に破綻がなければその相手は「知性」があると見てよいとする。

では、どのように破綻のない会話は続くのか。最初、論理を重ねたうえで、論理を循環させて返答するAIマシンが構想されたが、前もって学ばせておかなければならない前提は膨大であり、実用に堪えなかった。それに対して、ある革命が起きる。論理の積み上げや循環ではなく、中心になる概念や言葉に注目し、それとの近さによってつぎの言葉をつなげるシステムが開発されたのである。このAIは「トランスフォーマー（ジェネレーティブ・プリトレーニング・トランスフォーマー）」という。このAIには、すでに膨大な会話がインプットされ、そこから自分で言葉どうしの近さを学習し、それによって言葉をつないでいく。「生成的に自己構成し、訓練済みのトランスフォーマー」であり、その英語の頭文字を取って、GPTと呼ばれるようになる。この革命は衝撃を与えた。なぜなら、「知性」があると思われる受け答えには「自我」は関係ない、と証明してしまったからである。

このAIがどのような未来を開くのか、そして私たちはどのようにふるまえばよいのか。興味がある方は

ぜひ手に取ってもらいたい。



佐々木閑・佐々木齋生 著

『AIという鏡』

法蔵館 2026

体験会のご案内

予定が変更になる場合がございます。事前にご確認ください。

坐禅会

ZAZEN

初心者歓迎。坐り方、作法をお教えます。

日程・時間

毎月第3土曜日
15時～17時

8月休み・9月19日・10月10日
11月21日・12月19日

☆坐禅前に、禅の心に触れる「道元禅師研究」も行っております。

・講師／住職 15時～16時

奥村正博 著（宮川敬之 訳）『現成公按』を現成する』を購読します。

テキストはお寺で購入できます。

（3200円）

写経

SYAKYO

般若心経や法華経を写経してみませんか？

＊法華経全巻が写経できるのは日本で天徳寺だけです！

＊奉納されたお写経は写経筒に入れて、鐘楼門二階に納められます。

日程・時間

第1木曜日／15時30分

8月休み・9月3日
10月1日・11月5日・12月3日

第4土曜日／16時30分

8月休み・9月26日・10月24日
12月26日

御詠歌

GOEIKA

基本からやさしく学べます。

日程・時間

毎月第2・4木曜日
14時00分～15時30分

8月休み
9月10日と24日・10月8日と22日
11月12日・12月10日と24日

お寺の

台所手帖

典座寮通信



「おてら薬膳」はじめます！

みなさまこんにちは。暑い夏を迎えています。涼を求めて山や川、海に出て一息つきたいですね。ただ木陰に座って涼むときにも、幸せと思うこの頃です。

この原稿は二十四節気七十二候の「小暑」の次候「蓮始開（はすはじめてひらく）」ときに記しています。お寺の裏玄関の蓮の鉢には残念ながら栄養不足なのか花芽はありません。昔は城跡のお堀に蓮が沢山あって、早朝散歩していたら「ぽんつ」という蓮の開く音を聞くことができたとお伺いしています。蓮の開く音、聞いてみたいです。

インスタグラムを始め、お寺の行事や季節の頂いた食材をひっそりお送りしています。和歌山「三宝寺」のともちゃんや西福寺の公望和尚の発信も興味深く、時々リツイートしています。お寺の行事や、「蛇が出た!」とか「御詠歌の様子」「消しゴムハンコの驚きの作品」「お袈裟を縫う会のこと」など普段の様子が手元に届くことも大変嬉しく、天徳寺だけでないお寺の生活がみなさまの日常にお役に立てばいいなと思っています。

私は料理上手で信心深かった祖母、母の影響で

お料理が好きです。しかし美味しい料理が上手なわけではありません。美味しい料理は作れる方にお任せして、私は、いまの身体を養う、野菜を使った養生料理をお伝えします。少しでもみなさまの心とカラダの調子が整いますように。

9月から、月に一回行われている坐禅会の日のお昼に「おてら薬膳」としてその月の点心のご提供を計画しています。点心といえば、中華料理かなと思われるかも知れませんが、そうではありません。茶道文化において茶会が催される場合に、お弁当のような軽食が用意される場合があります。その様式には点心、松花堂弁当、茶懐石など、ボリュームや約束に違いがあります。茶道は室町時代から続くおもてなしの神髄ですが、決してお茶、お抹茶を点てるだけではない衣食住をひつくるめた総合文化なのです。茶葉が貴重で薬でもあった当時、空腹に抹茶を頂くのではなくて、よりおいしくお抹茶を頂く為にお料理をおなかに入れておくというのが本意のようです。点心はそこでお弁当より軽やかで、大人数のお茶会に対応することができるスタイルです。

今号は文月の点心。七夕によせて「おなかの調子を整えて身体の中から余分な熱を取り除き潤う献立」でした。作り方の気になるものがありましたら、メッセージください。9月の「おてら薬膳」についての詳細は、HPまたは「天月草木舎」のインスタグラムにてお知らせいたします。お楽しみにお待ちいただけますと幸いです。

宮川 亜希

文月の点心（左写真。メニューは左上より時計回り）

- ・ 蒸し野菜（椎茸、かぼちゃ、人参、長芋など）
- ・ おから団子とどくだみの天ぷら
- ・ 茄子の生姜煮
- ・ 金針菜、トマト、枝豆、西瓜の皮
- ・ 冬瓜とオクラの味噌すまし汁
- ・ はと麦茶飯
- ・ 短冊豆腐
- ・ 漬物



@tengetsu.soumokusya